

BAT 環境のトラブルシューティング

犬がいる場所の水深が深いほど（犬がより大きなストレスを経験している時ほど）、そこから助け出す必要性は高まります。犬のその時の精神状態に有効な最小限の方法で、ライフガードのように、自分の犬を助け出しましょう。適切な侵入レベルを用いることによって、（すべてを人が決めてしまい、犬に権限を与えない）マイクロマネジメントを回避し、犬が意思決定と能動的な対処方法を実践できるようにします。



犬が反応してしまう刺激（トリガー）を見ても、すぐに視線を外し、どこかへ行くこともなく、あなたのことをじっと見つめている場合、あなたの犬は「仕事モード」になっています。他の犬よりも多くの指示を必要とする犬もいます。自由にその場所をぶらぶらと歩きまわっていることが、違和感や居心地の悪さを感じさせているかもしれません。

- 興味のある匂いがする場所の近くを歩きましょう。そうすれば、あなたの犬はあなたから視線を外すことができるでしょう。あなたの犬があとで発見できるように、さり気なくトリーツを背後に落とすということをしていいでしょう。
- そのあとで、犬が反応してしまう刺激（トリガー）を置かずに、前述した少量のトリーツをさり気なく使ったしかけを使いながら、少しぶらぶらと歩きましょう。
- 犬がストレスを感じていて、ハンドラーに助けを求めている可能性があります。その場合は、仕切り直し、練習相手からさらに離れた場所から再スタートしましょう。

これから挙げる状況のいずれかが起きている場合、犬を止めるタイミングが遅すぎた可能性があります。犬を反応してしまう刺激（トリガー）から遠ざかることを促す必要がある時は必ず、犬がすぐに振り返ることのない、十分に離れた場所まで行くようにします。呼び戻しのキュー（合図）を使う場合は、練習相手から犬を離れさせたあとで、トリーツをいくつか地面にまいて、**毎回必ず強化**しましょう。

最初から、犬を止まらせることが難しい場合、あなたの犬はすでに自分自身では対処できない状況にあります。犬を呼び、離れましょう。私は、呼び戻しのキューとしての「トリーツ・パーティ」が好きです。一度にたくさんのトリーツを地面（犬に来てほしい場所）にまいて、（行動を）強化します。

視線を外したあと、犬が練習相手の方に向かってまっすぐに歩いていく場合、犬が（自分自身で）対処できるリラックスした状態であることを確信できなければ、犬を呼び、離れましょう。こうしたことが起こる時は、大抵、犬は反応してしまう刺激（トリガー）に集中しすぎています。少なくとも数歩は、水の中に足を踏み入れてしまっています。

視線を外すのに2秒以上かかる場合、犬のつま先は水の中に入っています。すぐに主導権を握るのではなく、どこへ行くかを提案しましょう。

- リラックスして、犬が自分自身で視線を外すのを待ちます。そのあと、適切な侵入レベル（コントロール/プロンプト）を使って、離れることを提案します。
 - 犬が空中の匂いを嗅いでいて（情報収集をされていて）、とてもリラックスしている場合は、自分の体重（体の重心）を練習相手とは反対の方に移動させることで、そっと（離れることを）促します。
 - 顔をそむけることが少し難しい場合は、もっと明確なプロンプトを使います。「終わった?」と声に出して聞きます。そして、自分の体重（体の重心）を練習相手とは反対の方に移動させます。
- あなたが待っている間に、興奮が増していく場合（顔の筋肉が硬くなる、伸び上がる、つま先立ちのようになる、呼吸が早くなる、心拍数が上がる、口を閉じる、練習相手の方に身を乗り出す、体を練習相手の方にまっすぐに向ける、胸をふくらませる、耳を前に向ける、尻尾が上がる、額にしわが寄る）は、**犬を呼び、離れさせましょう！**この時点で、犬はより深く水に入っているため、犬に（練習相手のことを）確かめるための時間を提供することはできません。

どうやらほとんどの犬が練習相手に引き寄せられるようです。例えば、怖いことだと学習することは、怖さを軽減させるので、情報を集めるのに十分なところまで近づきます。犬が反応してしまう刺激（トリガー）に、犬が徐々に近づいていくようにすべきですが、時間をかけましょう。最初の数回のセッションでは特に。ある距離で取り組んでみて、もっと離れる必要が本当にあるかどうかを体感してみるといいでしょう。最初、あなたは、効果を発揮する距離を見つけるために、試行錯誤することになるでしょう。それは、非常に重要なことです。適切な距離で取り組むことが、あなたの犬がこうした問題を克服するのに助けるための、もっとも確実な方法ですから。

反応してしまう刺激（トリガー）を犬が完全に無視している場合は、近づきすぎているか、離れすぎているか、犬がその存在にまだ気づいていないかのいずれかです。次のような選択肢があります。

- 犬をさらに遠くへと離れさせ、犬が顔を上げて練習相手を見始めるかどうかを確かめます。
- 練習相手がそこにいることを確実に犬に知らせるために、練習相手の犬に鈴を付けるか、練習相手の人に何かをしゃべってもらいます。

- 食べ物を探している間に、練習相手に近づいていくことができるように、トリーツを地面に置きます。ただし、練習相手の近づきすぎてしまうと、練習相手に気づいたときに、びっくりして吠え始めてしまうので、嗅ぎ回りながら近づきすぎてしまうことがないように気をつけます。

BAT がうまくいっているとどうしてわかるのか？ BAT 環境でのほぼすべてのセッションで、セッション開始時よりも終了時の方が、はるかに犬が練習相手に近づいていることに気づくことができるはずです。また、犬が反応しないでいられる距離を、BAT の初回セッションの開始時と、5 回目もしくは 10 回目のセッションの開始時とで比べてみても、進歩していることがわかるはずです。こうしたことが起きていない場合は、トレーナーに相談し、他にすべきことがないかどうかを確かめてください。